

気候サービスのための世界的枠組みに関するハイレベルタスクフォース ～第5回会合（最終会合）について～

1. 概要

12月13日（月）～15日（水）に、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の向井千秋氏を含む「気候サービスのための世界的枠組み」（以下、「枠組み」）に関するハイレベルタスクフォース委員がスイス・ジュネーブに集い、第5回会合（最終会合）が開催されました。ハイレベルタスクフォースは、平成22年2月以来これまで5回の会合で「枠組み」の構成要素などのあり方について検討を行い、最終報告書について概ね合意が得られました。この「枠組み」は、世界の各国が気候変動への適応力及び気候リスク管理能力を備えることを目指しています。

「枠組み」に関する提言を含む最終報告書は、来年（平成23年）1月に世界気象機関（WMO）事務局長に提出され、その後公開されます。来年5、6月に開催されるWMO世界気象会議*において本報告書に基づき「枠組み」の構成と実施計画が採択される予定です。

* WMO世界気象会議：WMOの全構成員（世界189の国と地域）の参加により4年ごとに開催されるWMOの総会。

2. 報告書について

報告書の詳細については後日公開されますが、その内容は概ね以下のとおりとなる見込みです。

- ・ 報告書は3つの部で構成。第1部は提供される気候サービスの現状、第2部は利用者が求める気候サービスと現実とのギャップを提示。これらを受けて、第3部においてそのギャップを埋めるための「枠組み」のあり方を提示。
- ・ 「枠組み」を構築し実施するにあたって重視すべき点として、利用者にとっての気候サービスの利用のしやすさの改善、継続的な気候サービスの提供、気候サービスの基盤となる観測や研究の推進などを指摘。
- ・ さらに、途上国における気候サービスの改善のための能力開発を一つの柱とすべきことを提案。

3. 気象庁の今後の取り組み

気象庁は、関係省庁を含む気候情報の利用機関と連携、協力しつつ、当庁が運営するWMO 地域気候センターの活動等を通じて、この「枠組み」に関する検討や実施に積極的に協力していきます。

【参考】

- ・ 気象庁報道発表資料（平成 22 年 3 月 1 日）
[「気候サービスのための世界的枠組みに関するハイレベルタスクフォース ～ 第 1 回会合が開催されました～」](#)
- ・ 気象庁報道発表資料（平成 22 年 1 月 13 日）
[「気候サービスのための世界的枠組みに関するハイレベルタスクフォース ～ JAXA 向井千秋氏が選出されました～」](#)
- ・ 気象庁報道発表資料（平成 21 年 9 月 3 日）
[「第 3 回世界気候会議（WCC-3）が開催されました ～「気候サービスのための世界的枠組み」の構築を決定～」](#)

問い合わせ先： 03-3212-8341（気象庁代表）
総務部企画課国際室（内線 2267）
地球環境・海洋部気候情報課（内線 3152）